

027  
137  
1

遠列  
沢木



029  
159  
1

愛知女子専  
第 11684 號  
書 圖

補

補

難波津の梅を鼻の穴より  
巾の隙より滴るは  
わらわは ともなはれぬ  
まげく 昔跡の眞もや  
と 毎のわたり見たり  
うねり さいふ都鄙  
人々のあそび  
そとわらわの

しるしきりつるし中  
わのちのりちつるゆい  
濱苞とわめり事志り

葉隱堂

只木序

步行吟

あゝあゝは家ぞと来り

笑わぬあゝの花や六十里

只木

みそせゆるわくわ

高師山をさ

との音はさゆ追の雉さ

今

極見坂よとく

東風吹や浪の底ゆく臙師舟

今

沖波とるはくせりは古歌

と竹の塚とてうすなれとて

せやとるやも暖し竹の塚 全

八橋のひの端は袖のわくと

古ののこは今ゆりてわけて

芳しやまよつひと杜より 全

い千瀬の波のまよふえし結垣

の解し

るわともよゆぬあはれあふ 全

瀬田の橋は是るらん石のま

晚鐘とひかりの耳し

鐘よりしきよ返りて後二橋 全

まぢよのせりぬのせりぬと

かみ川のせりぬとて系橋よ

板室珠と常盤とて一孔星 全

かして板のわけてゆりて

芳師のむらてきよき竜田の

ゆきおろしとてかたし而空堂

いさよふゆふ

春の日は行もさく不動坂 全

筆控よりねらいつくやう

わき禁よゆ

おれわくよ夫立は舞く梅将 全

多武の冨の景

花もやんか竹の如高時後 全

泊瀬

雲かすく天津くくや長廊下 全

二橋のよわね二本は枝のよ

くさつ

昔時よるゆいや紙書此系 全

當六

善風やいゆもやん一取汗 全

竜田の村よりゆきてぬ長崎の

わきをりおろそとてしりて

此神のこほりあつう

さき神のちあつうとてそ鶴合 全

あつうとてあつうとてあつうと

あつうとてあつうとてあつうと

あつうとてあ南大門とて

あつうとてあつうとてあつうと 全

あつうとてあつうとてあつうと

あつうとてあつうとてあつうと

あつうとてあつうと

あつうとてあつうとてあつうと

あつうとてあつうと

あつうとてあつうと

丹波堂山松風堂

指折く神のむし首逢ひ

あつうとてあつうとてあつうと

麥より花と日常馬一羽

只木

自身庖丁を握り初野

伽夕

大倉根の遊系をふくむに捨く

秋植

月ハ詩を産み 器ウツモノなり

家種

口くさやりのふれを淋く

古山

掃く崩れ粉米の山

木

法持女の蓬織ハ襦袢町

夕

被控板も沖不ハ風流

山

拾いも罫じよいの御意ミコトノコトあり

口

伽羅観音ハ世の濡と守

夕

公太子お化りの符マタコトく

木

孫連ゆか池の蜻蛉

山

斤足の鷲両足の寝伸ノドする

植

汝も体り眼鏡メガネぬけり

和

子福者ハ因マタの續ツグく泉有イハ性

木

刀を垂ツルよ言地コトすくマ傳ツタ

種

脛舌より角切月を清てまろ

火入の白<sup>シマカ</sup>灰を暴<sup>ウツ</sup>風吹して

飛<sup>ネ</sup>去<sup>ル</sup>了<sup>シ</sup> 誰<sup>ナニ</sup>もよめて 並<sup>ナラ</sup>び

真の所<sup>マコト</sup>舟<sup>フネ</sup>の磯<sup>イソ</sup> 踏<sup>フミ</sup> 踏<sup>フミ</sup>

あくも<sup>ウツ</sup>高<sup>タカ</sup>辛<sup>シ</sup>世<sup>ヨ</sup>を<sup>イ</sup>テ<sup>ス</sup> 塩<sup>シホ</sup> 慈<sup>ニギハヤヒ</sup>子

う<sup>ウ</sup>矢<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>科<sup>カ</sup>よ<sup>ヨ</sup>か<sup>カ</sup>ゆ<sup>ユ</sup> 皮<sup>クニ</sup>の<sup>ノ</sup>果<sup>ミ</sup>

馬<sup>ウマ</sup>ん<sup>ン</sup>せ<sup>セ</sup>は<sup>ハ</sup>八<sup>ヤチ</sup>潮<sup>ウシ</sup>の<sup>ノ</sup>河<sup>カ</sup>ら<sup>ラ</sup>う<sup>ウ</sup>亭<sup>テイ</sup>て<sup>テ</sup>り

疾<sup>ハヤシ</sup>癖<sup>ヘク</sup>名<sup>ナ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>や<sup>ヤ</sup>於<sup>オ</sup> 藤<sup>フジ</sup> 宿<sup>ヤク</sup>

夕

楨

和

種

木

山

和

種

刺<sup>サシ</sup>刺<sup>サシ</sup>を<sup>ヲ</sup>松<sup>マツ</sup>付<sup>ツキ</sup>け<sup>ケ</sup>は<sup>ハ</sup>歩<sup>フ</sup>て<sup>テ</sup>

葉<sup>ハ</sup>乃<sup>ノ</sup>う<sup>ウ</sup>利<sup>リ</sup>發<sup>ハツ</sup>散<sup>サン</sup>の<sup>ノ</sup>氣<sup>キ</sup>入<sup>イ</sup>

菊<sup>キク</sup>細<sup>ホソ</sup>の<sup>ノ</sup>後<sup>ノチ</sup>より<sup>ヨリ</sup>草<sup>クサ</sup>も<sup>モ</sup>行<sup>ユク</sup>

て<sup>テ</sup>う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>小<sup>コ</sup>お<sup>オ</sup>積<sup>ツキ</sup>は<sup>ハ</sup>徳<sup>トク</sup>信<sup>シン</sup>舎<sup>シャ</sup>く

月<sup>ツキ</sup>よ<sup>ヨ</sup>程<sup>ほど</sup>多<sup>タ</sup>治<sup>チ</sup>の<sup>ノ</sup>う<sup>ウ</sup>や<sup>ヤ</sup>淨<sup>スガ</sup>々<sup>々</sup>ん

筋<sup>スジ</sup>引<sup>ヒキ</sup> 勢<sup>セウ</sup>六<sup>ロク</sup>意<sup>イ</sup>の<sup>ノ</sup>教<sup>キョウ</sup>り

木<sup>キ</sup>の<sup>ノ</sup>端<sup>は</sup>は<sup>ハ</sup>比<sup>ヒ</sup>並<sup>ナラ</sup>尾<sup>ビ</sup>を<sup>ヲ</sup>う<sup>ウ</sup>か<sup>カ</sup>き<sup>キ</sup>か<sup>カ</sup>へ

橋<sup>ハシ</sup>か<sup>カ</sup>く<sup>ク</sup>み<sup>ミ</sup>ま<sup>マ</sup>と<sup>ト</sup>水<sup>ミヅ</sup>わ<sup>ワ</sup>び<sup>ビ</sup>う<sup>ウ</sup>鴛<sup>ウ</sup>鴦<sup>ヤ</sup>

夕

楨

山

種

木

和

夕

楨



解りて津乃曲橋ハ采と牛

種

彩彩垂り明付ハ蓋

山

美濃の地帯一や三々せり

和

土筆も教とて一山人春

執筆

只木生ハ滑替を乃遊入て予

ら暇ししををまひて其園も

遊入とてつとつたの事て一田家

はととてつたつたつたつた

まれれを由〇とて一也とつた

白紙傍の末久一わんを

宝坐し而弥生月而築堂書

ゆかりてハ雲路ハ眺ム

只木

藤竹くつり竹乃高欄

巖石

朽叶を拘杞系土谷へ入せて

晚山

群の鯛、沢木の川はら

小褶

卯のうと合杯は舞の月も晴

和海

股のあつりとさうねと秋風

概筆

桐の葉はさすみとらうらうら

石

急の如きせうあなは琴

木

難水も髪梳きも大井川

褶

帰参の袖と引立て花花

山

五輪さへ抄いものゝ昔れも

海

毛羽の早らや小南風是

石

傾城とつとつと退さる月々々

山

流々眼尾マシを裁ふ物音

海

後わゝ形威と強し初わゝ

木

永字紙わげと劔術巻

褶

四百餘の花井梢の大通事

石

舟に遊ば難食と焼

山

輝の口とさくらさくらまなわて

海

面著く葛籠背のまなわ

木

江天くま唯木は餅の生やま

山

送縁まうく法印のつづ

石

わいせ碑の昔あきき層よて

木

後の釣こと白粥くつ

海

病飛と産てふせくや冬籠

襦

うくれけくまの思懐の奥

山

先一つはきく蘭を法よ家

石

物賣ひぢり月よ嘯

襦

槌て掃くめらせが尾のひやま

山

石りさうわく擬宝珠よ反

石

まなげと風の吹くく晒白

木

耕同りりり笠よ入日記

海

わいせの齧とくりよ立雲の橋

襦

身具帯の身一よ金

木

解結の花極ふそく 詩仙雲 海

あゆむ草の下も履ハキ 襦

名よーしゆ小波松のまきさくすり  
只本まよ何しゆかたり何しゆか  
下官一とせまきまよしゆり  
いし出れとまきしゆりしゆり  
宗宗しゆりしゆりしゆり  
かきん

和梅

港方ねく小比敷も活て花の名

あのみまき花は若葉の病 栄

節の青より紅より花(顔)より 鞭石

佐保姫の内こくは増や花也 伊賀集吹琴堂 伴松

晚鐘ハ梅乃むれ地震小 佃馬出石容膝軒 可雷

口上の一門道具や 立扇 同所 怒吟

折込くくくくくくく 勢列素石 汐門

雛車 猫ハ下所 八下所 暮四

山道習や切菟とさよふ若かり

秀可

行ひしうん氣と長靴く木芽は

鞭石

右七句而笑堂ヨリ

洪集、幸便

餞別

今二行とていふことありて

爲よ宿りゆくいゝ小母糸

菴堂

伽才

何のせうつゝい

大根の糸とやれ竹輿のを

全

和らぐや鬼の首塚内白の花

舟亀山仁見氏

口和

寢一夜花よ振ひけゆり屠

惠島園初堂

古山

さくそとわたりし後

まゝととらぬ

控くときまほしーの名所小

同聲吟堂

秋模

たふと始り

まどい

鬼のさい困みてゆき天付屠

同所

家種

背乃紋をりゝその的也芽む打

鞭石

花持てる理よ富子のゆりく

曉山

やまうらふりり多入権の喜

和梅

足腰の物さものまを物重産

小襦

遠山は作つてゆや風炉乃灰

通見

端(昇竹)輿(や)河(は)花(は)房(は)

共木

井蘭屋去古流後

